

場面	あ ら す じ	登 場 人 物
<p>帰郷</p>	<p>・季節は()、わたしは故郷の村に()年ぶりに帰ってきた。 ・故郷の村々は、いささかの活気もなく、わびしい。</p>	<p>【わたし】 ・活気のない、わびしい村々()の感() ()のための帰郷</p>
<p>と面 甥対 母の</p>	<p>・ひっそりと静まった故郷の家で、母と甥のホンルに対面する。 ・引越しの話の中で() ()が話題になる。</p>	<p>【ホンル】 ・わたしの() ()歳の甥 【母】 ・機嫌よかったが、さすがに() ()表情</p>
<p>の 中 の ト ウ</p>	<p>・わたしの脳裏にルントウとの思い出の場面が描かれる。 ・() ()年近い昔、ルントウは祭器の番をするため、雇い人である父親に連れられてやって来た。 ・わたしは、ルントウから、さまざま珍しい話を聞く。(例えば() ()を聞く。)</p>	<p>【十一、二歳のルントウ】 ・外見 ・自分のこと「」 ・わたしのこと「」 「」 ルントウのことを思い出し、やっと美しい故郷を見た思いがする。</p>
<p>の 再 会</p>	<p>・ヤンおばさんが現れる。 ・ヤンおばさんは、すっかり変わってしまった。 ・ある寒い日の午後、ルントウが訪ねてきた。 ・ルントウは姿も心も変わり果てていた。 ・わたしは、自分とルントウの間には() ()があることを自覚する。 ・一方、ルントウの子供() ()と甥のホンルは仲良くなる。</p>	<p>【かつてのヤンおばさん】 ・外見 () ()とみられる。 ・彼女のおかげで豆腐屋は商売繁盛。 【現在のヤンおばさん】 ・外見 () ()そっくり。 ・さげすむような表情。 ・母の手袋をポケットにねじ込む。</p>
<p>の 再 会</p>	<p>【現在のルントウ】 ・外見 ・自分のこと「」 ・わたしのこと「」 「」 シュイシヨンとホンルの関係は、以前のルントウとわたし(シュンちゃん)の関係。</p>	<p>【わたし】 ・ルントウの希望() () ・わたしの希望() () () () 押むだけ、願うだけでは実現しない。 希望とは() ()のようなものだ。 歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。</p>
<p>の 思 い</p>	<p>・現在の故郷に絶望しながら、わたしは故郷をあとのにする。 ・少年時代、わたしにとって() ()だったルントウの面影も薄れてしまう。 ・わたしは若い世代に、身分や生活の苦しさによって隔絶することのない() ()を希望する。 ・しかし、わたしの希望とはルントウが偶像を拜むのと同じであると気づく。</p>	<p>希望とは() ()のようなものだ。 歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。</p>